

平成30年度（29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	環境保全推進課
	施策	ごみの減量と再資源化の推進		電話番号	087-839-2393
	基本事業	ごみの減量・リサイクルの推進		事業実施主体	市
	事務事業	家庭系ごみ有料化事業		事業期間	平成28年度～平成35年度

【事業全体概要】

事業の概要	家庭系ごみのより一層の減量・資源化、ごみ処理にかかる負担の公平化、ごみに責任をもつ社会の実現を目指し、平成16年10月から、定期収集家庭ごみのうち、「燃やせるごみ」「破碎ごみ」について、大(40リットル相当)・中(30リットル相当)・小(20リットル相当)、特小(10リットル相当)の4種類の有料指定収集袋による回収を開始した。また、平成28年10月から、高齢者等ごみ排出量の少ない世帯の利便性の向上を目指し、従来の4種類に5リットル相当の「超特小」を加えて、5種類での運用を開始した。		
30年度概要	この家庭系ごみ有料化事業の実施にあたって、5種類の有料指定収集袋を活用し、その製造、収納事務(スーパーなどの店舗における一般廃棄物処理手数料収納事務)及び配送・在庫管理に関する事務を行う。		
重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の類型	

【事業の目的】

対象(何を)	ごみを排出する市内の全家庭
意図(どのような状態にしたいか)	各家庭がごみを排出する際に、有料指定収集袋を購入し、使用してもらう。

【事業の活動】

活動指標名(具体的にどのような活動をしたか)	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標H30
有料指定収集袋作製枚数(特小換算)	枚		47,400,000	44,850,000	43,000,000	43,000,000

【事業の成果】

成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標H30
有料指定収集袋使用枚数(特小換算)	枚	目標値		47,400,000	45,900,000	43,000,000	43,000,000
		実績値		43,877,750	44,741,500		
成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)							(達成度) 102.5%
家庭ごみの減量化に伴い、袋の作製・使用枚数は減となる。なお、平成29年度の目標達成度は、102.5パーセントであった。							35点
成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標H30
成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)		目標値					
		実績値					
成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)							(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	平成27年度(決算)	平成28年度(決算)	平成29年度(決算)	平成30年度(予算)
トータルコスト	[円]	195,287	194,869	173,187	182,210
(事業費)	[円]	189,145	187,803	166,359	175,382
(職員人件費)	[円]	6,142	7,066	6,828	6,828

【評価】

評価ランク(A~D)	A	今後の方向性(拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	継続
------------	---	--------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

平成28年10月から従来の「大」、「中」、「小」、「特小」の4種類に、新たに、5リットル相当の「超特小」を加えて、5種類で運用を開始し、高齢者等ごみ排出量の少ない世帯の利便性の向上等の成果が見込まれたため、引き続き事業を実施した。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入)

平成28年度に超特小を導入し、「大」、「中」、「小」、「特小」、「超特小」の5種類とした指定収集袋を活用した、家庭系ごみ有料化事業の円滑かつ適正な運用を継続することにより、利便性の向上も図りながら引き続き、家庭系ごみの減量・資源化を推進する。

平成 30年度（29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画 体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価 担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	環境保全推進課
	施策	ごみの減量と再資源化の推進		電話番号	087-839-2393
	基本事業	ごみの減量・リサイクルの推進		事業実施主体	市
	事務事業	ごみ減量・資源化啓発事業		事業期間	平成 28年度～平成 35年度

【事業全体概要】

事業の概要	「ごみ分別ガイドブック」・「ごみ収集カレンダー」、小学校社会科副読本「きれいな高松に~くらしとごみ~」の作製・配布に加え、平成 28年 11月 から、新たに、スマートフォン・タブレット端末利用者に向けての「ごみ分別アプリ」の配信を開始する等により、ごみの減量・リサイクルを推進するとともに、高松市リサイクル推進員の各校区への配置による地域ぐるみの主体的なりサイクルの推進に取り組む。		
30年度概要	ごみ分別ガイドブック・ごみ収集カレンダー・小学校社会科副読本の作製・配布に加え、ごみ分別アプリの配信等により、ごみの減量・リサイクルを推進するとともに、高松市リサイクル推進員の各校区への配置による地域ぐるみの主体的なりサイクルの推進に取り組む。		
重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の種類	

【事業の目的】

対象(何を)	ごみを排出する市内の全家庭
意図(どのような状態にしたいか)	ごみ分別ガイドブックを配布することにより、各家庭が正しいごみの分別方法を理解し、資源物は資源物、有害ごみは有害ごみ、燃やせるごみは燃やせるごみなどのように正しく分別してごみを出してもらう。

【事業の活動】

活動指標名(具体的にどのような活動をしたか)	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
ごみ分別ガイドブック配布数	冊		24,000	24,000	24,000	24,000

【事業の成果】

成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
プラスチック容器包装ごみの再資源化割合	%	目標値		90	90	90	90
		実績値		91.4	91.3		
成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)							(達成度) 101.4% 35点
成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)							
成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)							

【コストの推移】

指標名	単位	平成 27年度(決算)	平成 28年度(決算)	平成 29年度(決算)	平成 30年度(予算)
トータルコスト	[千円]	13,061	12,614	12,195	12,510
(事業費)	[千円]	4,232	3,585	3,470	3,785
(職員人件費)	[千円]	8,829	9,029	8,725	8,725

【評価】

評価ランク (A~D)	A	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	継続
-------------	----------	---------------------------	-----------

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

前年に引き続き、ごみ分別ガイドブック・ごみ収集カレンダー・小学校社会科副読本の作製・配布、リサイクル推進員等事業に加え、平成 28年 11月に開始した「ごみ分別アプリ」を更に周知することにより、ごみの減量・リサイクルを推進した。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入)

ごみ分別ガイドブック・ごみ収集カレンダー・小学校社会科副読本の作製・配布、リサイクル推進員等事業に加え、平成 28年度から配信を開始したごみ分別アプリについて、ゴミ分別ガイドブック等の媒体にQRコードを印字したり転入者向けにチラシを配布するなどを行い、利用を拡大することで更なるごみの減量・リサイクルの推進に取り組んでいく。

平成30年度（29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	環境保全推進課
	施策	ごみの減量と再資源化の推進		電話番号	087-839-2393
	基本事業	ごみの減量・リサイクルの推進		事業実施主体	
	事務事業	ごみ再資源化事業		事業期間	平成28年度～平成35年度

【事業全体概要】

事業の概要	環境への負荷の低減と限りある資源の有効利用による持続可能な「循環型社会」を形成していくために、ごみの発生抑制やリサイクルをすすめることが重要となり、一人ひとりがごみに対する意識を高め、ごみに責任を持つことが求められている。この事業は、家庭から出された缶・びん・ペットボトル、プラスチック、紙類等資源ごみについて、再資源化を行うための中間処理を行い、プラスチック、色つきのびんについては、日本容器包装リサイクル協会に引渡し（処理にかかる経費の負担はなし）、缶・びん・ペットボトル、紙類など有価にて売払いで出来るものは、専門業者に売却している。		
30年度概要	家庭から出された缶・びん・ペットボトル、プラスチック、紙類等資源ごみを、再資源化のための中間処理を行い、プラスチック、色つきのびんについては日本容器包装リサイクル協会に引渡し（処理にかかる経費の負担はなし）、缶・びん・ペットボトル、紙類など有価にて売払いできるものは専門業者に売却する事業を行う。		
重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の類型	

【事業の目的】

対象（何を）	家庭から出された資源ごみ
意図（どのような状態にしたいか）	家庭から分別して出された資源ごみを再資源化することにより、環境への負荷の低減と限りある資源の有効活用を推進する。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
缶・びん・ペットボトル中間処理量	k g		2,599,230	2,477,470	2,600,000	2,600,000
プラスチック中間処理量	k g		3,311,360	3,410,320	3,300,000	3,300,000

【事業の成果】

成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
缶・びん・ペットボトル資源化量	k g	目標値		2,250,000	2,250,000	2,250,000	2,250,000
		実績値		2,249,633	2,266,396		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 家庭ごみ中の資源化の推進による資源ごみ量の増加要因と、家庭ごみ全体の減量化の推進による資源ごみ量の減少要因から、缶・びん・ペットボトルの資源化量は現状数量で維持する。なお、平成29年度の目標達成度は、100.7パーセントであった。	2500000	(目標達成度)					(達成度) 100.7% 35点
プラスチック資源化量	k g	目標値		3,026,000	3,026,000	3,026,000	3,026,000
		実績値		3,026,583	3,144,986		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 家庭ごみ中の資源化の推進による資源ごみ量の増加要因と、家庭ごみ全体の減量化の推進による資源ごみ量の減少要因から、プラスチック容器包装の資源化量は現状数量で維持する。なお、平成29年度の目標達成度は、103.9パーセントであった。	3500000	(目標達成度)					(達成度) 103.9% 35点

【コストの推移】

指標名	単位	平成27年度（決算）	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（予算）
トータルコスト	[千円]	194,833	187,436	190,562	185,432
（事業費）	[千円]	188,308	180,370	183,734	178,604
（職員人件費）	[千円]	6,525	7,066	6,828	6,828

【評価】

評価ランク (A～D)	A	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	継続
-------------	---	---------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

引き続き、家庭から出された缶・びん・ペットボトル、プラスチック、紙類等資源ごみの中間処理を行い、再資源化を推進した。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

引き続き、家庭から出された缶・びん・ペットボトル、プラスチック、紙類等資源ごみの中間処理を行い、再資源化を推進する。

平成30年度（29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	環境業務課
	施策	ごみの減量と再資源化の推進		電話番号	087-834-0389
	基本事業	ごみの減量・リサイクルの推進		事業実施主体	市
	事務事業	小型家電等リサイクル推進事業		事業期間	平成28年度～平成35年度

【事業全体概要】

事業の概要	支所・出張所や家電販売店及び「不法投棄撲滅ふれあいクリーン作戦」などのイベントに回収ボックスを設置して、使用済小型家電21品目を回収する。また、南部・西部クリーンセンターの委託業者の協力を得て、ピックアップ回収を実施する。				
30年度概要	小型家電リサイクル事業の普及・啓発事業のため、チラシの作成及び配布を行う。				
重点取組事業	一般重点	市長マニフェスト	事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務有）	


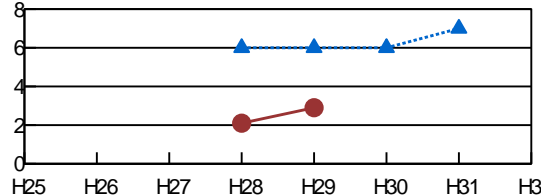
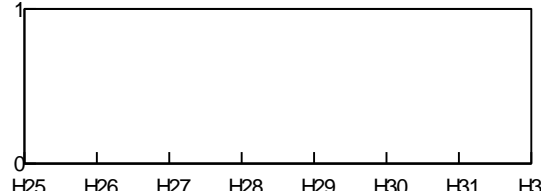
【事業の目的】

対象（何を）	<ul style="list-style-type: none"> 不要になった携帯電話、デジタルカメラ、ゲーム機等の使用済小型家電21品目。 家庭から出る破碎ごみから回収された使用済小型家電21品目。
意図（どのような状態にしたいか）	使用済小型家電の回収を実施することにより、レアメタルを含む有用な金属のリサイクルを推進する。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
住民説明会等の実施回数	回		14	15	16	16

【事業の成果】

成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
年間回収量	トン	目標値		6	6	6	6
		実績値		2.1	2.9		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 回収量について、ボックス回収は前年度に比べ4割程度増加し、南部・西部クリーンセンターでのピックアップ回収量も前年度に比べ2割程度増加し、平成29年度の回収量は約2.9トンとなった。 		(目標達成度)					(達成度) 48.3% 16点
成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）		(目標達成度)					(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	平成27年度（決算）	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（予算）
トータルコスト	[千円]	1,149	1,361	866	850
（事業費）	[千円]	381	576	107	91
（職員人件費）	[千円]	768	785	759	759

【評価】

評価ランク（A～D）	C	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
------------	---	--------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

市内22か所に設置した回収ボックス等による回収や、南部クリーンセンター及び西部クリーンセンターで実施したピックアップ回収などにより、合計2,969キログラムの使用済小型家電を回収したことにより、希少金属等の再資源化や埋立ゴミの減量化に著実な効果があった。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

昨年度に引き続き、東京オリンピック・パラリンピックのメダルに小型家電由来の貴金属を用いる「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に参加し、一層の回収量増加に取り組むとともに、回収対象品目の拡大についても検討する。